

各教科における「指導と評価の一体化」のための学習評価のポイント

本資料では、各教科における評価方法や評価の場面、留意点等の例を紹介しています。

日々の授業においては、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）や本資料を参考にしながら、授業の質の向上を図り、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいくことを期待しています。



教育庁義務教育課

小学校国語「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点			
				知	思	態	
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・友達との関わりを通して話す事柄の順序を考え直す等のよい学び方を取り上げて共有する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認しておく。 ・「努力を要する」状況(C)への対応を想定しておく。 </div>	○	○	○
	発言 (ペア・全体)		・言葉をよりよく使うことにつながるような発言や発言の仕方のよいところ等を評価し、全体に広める。		○	○	—
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	・視点を提示して書かせたり、よい学び方は紹介したりする。		○	○	◎
	ワークシート、ノート、宿題等	3、4回/単元	・よい学び方は、掲示するなどして広める。 →記述の内容が不十分な場合は、具体的な表現の例を示したり、教師と一緒に検討したりする。		◎	◎	◎
	小テスト	必要に応じて	・指導事項の定着の確認を目的に実施する。		◎	○	—
	児童の書いた意見文等	必要に応じて	・どこがよいのか具体的に紹介する。		○	◎	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	必要に応じて	・活動の様子と記述の内容とを照らし合わせたり、必要に応じて質問したりして、評価に反映する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するか決定しておく。 ・言語活動を評価するのではないことに留意する。 </div>	—	○	◎
	発言 (ペア・全体)		・「授業が楽しかった」のような「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述を評価の対象にしない。相手に伝わるように話す事柄の順序を進んで考えようとしているか等を見取り、評価に反映する。		○	○	△
	振り返り(感想等)	1、2回/単元	・ノート等を出しているかどうかではなく「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述内容から評価する。		△	△	◎
	ワークシート、ノート、宿題等	2、3回/単元	・評価規準に基づいて、評価する。		◎	◎	◎
	単元(小)テスト	必要に応じて	・評価規準に基づいて、どこがよいのか具体的に伝えるように簡潔にコメントする。		◎	○	—
	児童の書いた意見文等	必要に応じて			—	◎	○

◎…積極的に評価の対象とする ○…評価の対象とする △…場合によっては評価の対象とする

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校国語 2年 思い出を報告しよう（A話すこと・聞くこと）「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点			
				知	思	態	
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、 教員の指導改善に 生かす評価)	机間観察	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> 話す事柄の順序について、友達と相談しながら考え直している（主体的に学習に取り組む態度）等、よい学び方を取り上げて共有する。 伝えたい思いの強さを手がかりにして話す事柄を選んでいる（<u>思・斬・観</u>）児童を価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認しておく。 「努力を要する」状況（C）への対応を想定しておく。 	○	◎	◎
	発言（ペア・全体）						
	ワークシート	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように時間的な順序や話す事柄の順序を考えるとともに、聞き手に与える印象や効果まで含めた理由を記述しているものを掲示するなどして広める。 →順序に沿って並べることができなかった児童には、どんな順序だったら相手に伝わるのかを一緒に考える。 		—	◎	○
	話す事柄が書かれたカード	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> カードの表現のどのような点がよいかを紹介する。 →学習した言葉が活用できなかった場合は、当該児童の思い出に合わせて、表現の例を示す。 		◎	—	—
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> カードを並べている様子とカードの記述の内容とを照らし合わせて、評価に反映する。 カードの並び順とその順序にした理由（<u>思・斬・観</u>）の記述から評価する。 並び順の理由の記述と活動の様子とを照らし合わせて、相手に伝わるように話す事柄の順序を進んで考えようとしているか（<u>主体的に学習に取り組む態度</u>）を見取り、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するか決定しておく。 言語活動（思い出の報告）を評価するのではないことに留意する。 	○	○	○
	発言（ペア・全体）						
	ワークシート	3回/単元			—	◎	◎
	話す事柄が書かれたカード	1回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉等の学習した言葉を文意に沿って不自然にならないように用いているかを見取り、評価する。 	◎	—	—	



◎…積極的に評価の対象とする ○…評価の対象とする △…場合によっては評価の対象とする

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

小学校社会「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・他の社会的事象との違いや共通性に気付くなどのよい考えを取り上げて共有する。また、どの程度捉えているか等を把握する。	○	○	—
	発言（発表）ペア	毎時間		○	○	—
	全体	毎時間	・気付きを称賛したり、疑問を投げかけたりして、全体に広める。	○	○	—
	ノート、ワークシート等	3、4回/単元	・人の思いや願いに気付いた記述等は、掲示する等して広める。	—	◎	◎
	振り返り（感想等）	毎時間	・書き方の視点を提示して書かせ、よい記述は紹介する。（自分事として考えているか、新たな疑問を見出しているか等） →何をどのように捉えているかを把握して、次時の授業構想に生かす。	○	◎	◎
	小テスト	必要に応じて	・知識及び技能については、習熟の確認を目的に授業の終盤等に確認問題を実施するのが望ましい。 →定着状況が不十分であれば個別指導等の手だてを講じる。	◎	△	—
地図、新聞、レポート等	1回程度/単元	・単元の学習のまとめとして作成させ、作品にはコメントを入れる。 今後の地域社会に関する気付き等、よさを価値付けて紹介する。	—	◎	○	
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	観点を絞って	・社会的な見方・考え方による発言に注目し、評価に反映する。	—	○	◎
	説明（発表）全体	ねらいを明確にして適切に	・発表の回数のみで評価しない。ねらいを明確にして「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。	○	○	△
	振り返り（感想等）	3、4回/単元	・「授業がおもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り出して評価の対象にしない。	○	○	◎
	ノート、ワークシート等	3、4回/単元	・ノートやワークシート等の提出のみで評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。	△	○	◎
	単元（小）テスト	1、2回/単元	・授業で扱った社会的事象の「知識・技能」等の習得状況を把握するために、単元テストや小テストを実施する。	◎	○	—
	地図、新聞、レポート等	1回程度/単元	・コメントを返すことで評価する。自分事として捉えているか、比較・関連付け、総合的に考えているか等を評価する。	—	◎	○



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校社会 5年 米づくりのさかんな地域 における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・米づくりに関する社会の仕組みや、人々の工夫や努力についての気づき等を取り上げて共有する。県内の米づくりの様子との違いを投げかける等、自分事として考えられるように全体に広める。	○	○	—
	発言（発表）ペア	毎時間		○	○	—
	全体	毎時間		○	○	—
	ノート、ワークシート等	3、4回/単元	・消費者や生産者の思いや願いに気付いた記述等を掲示する。	—	○	◎
	振り返り（感想等）	毎時間	・消費者や生産者の立場から具体的に考えた記述等を紹介する。米づくりに対する個々の考え等を把握して、授業構想に生かす。	○	◎	◎
	小テスト	必要に応じて	・米づくりの工程や技術の向上等に関する知識・技能の評価については、習熟の確認を目的に確認問題を実施するのが望ましい。→定着状況が不十分であれば手立てを講じる。	◎	△	—
	レポート等	1回程度/単元	・学習のまとめとしてレポート等を作成させ、コメントを入れる。今後の農業の発展に関する気づき等、よさを価値付けて紹介する。	—	◎	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	観点を絞って	・消費者と生産者の思いや願いを関連付けた発言等に注目し、評価に反映する。	—	○	◎
	説明（発表）全体	ねらいを明確にして適切に	・米づくりのあり方の説明等について、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を関連付けて評価する。	○	○	△
	振り返り（感想等）	3、4回/単元	・米づくりの学習を振り返り、疑問点を明確にししながら、単元を通じた課題解決に向けた見通しをもっているか等を評価する。	○	○	◎
	ノート、ワークシート等	3、4回/単元	・米づくりを含めた日本の農業が抱える課題の解決について、消費者と生産者の立場から自分なりに考えた記述等を評価する。	△	○	◎
	単元（小）テスト	1、2回/単元	・米づくりに関する「知識・技能」等の習得状況を把握するために、単元テストや小テストを実施する。	◎	○	—
	レポート等	1回程度/単元	・学習したことをもとに自分事として捉えているか、総合的に米づくりを含めた今後の農業の発展を考えているか等を評価する。	—	◎	○



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校社会「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する資料
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する資料
小学校社会

小学校算数「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・参考になる考え等を取り上げて共有する。	○	○	—
	説明（発表）ペア	毎時間	・どの程度身に付いているか等を把握する。	○	△	—
	全体	毎時間	・既習の内容に基づいた説明等、説明のよいところを評価し広める。	○	○	—
	振り返り（感想等）	毎時間	・書き方の視点を提示して書かせ、よい記述は紹介する。	○	◎	◎
	ノート、宿題等	3、4回/単元	・参考になるノート（学び方）は、掲示するなどして広める。	—	◎	◎
	確認問題	毎時間	・知識及び技能に重点をおいた授業では、習熟の程度を確認するために <u>毎時間の授業の終盤等で確認問題を実施</u> するのが望ましい。 →①全体の定着状況が不十分であれば、次時の授業構想を変更する。 ②個別指導等の手だてを講じる。	◎	△	—
レポート	1回程度/単元	・単元の学習のまとめとしてレポートを作成させる。作品の優れている点について紹介する。各レポートにはコメントを入れる。	—	◎	○	
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	顕著な姿	・数学的な見方・考え方等を取り上げ、評価に反映する。	—	○	◎
	説明（発表）全体	ねらいを明確にして適切に	・発表の回数のみで評価しない。ねらいを明確にして、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。	○	○	△
	振り返り（感想等）	3、4回/単元	・「授業がおもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り出して評価の対象にしない。	○	○	◎
	ノート、宿題等	3、4回/単元	・ノートや宿題等を出しているかどうかのみで評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。	△	○	◎
	単元（小）テスト	1、2回/単元	・授業の確認問題をベースに単元テストや小テストを実施する。 ・「事実的な知識の習得」だけでなく「知識の概念的な理解」に関する問題をバランスよく扱う。	◎	○	—
レポート	1回程度/単元	・コメントを返すことで評価する。	—	◎	○	

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校算数 5年 平面図形の面積における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、 教員の指導改善に 生かす評価)	机間観察	毎時間	・既習の図形への分割や合成の考え等を取り上げて共有する。	○	○	—
	説明（発表）ペア	毎時間	・導いた公式を使って面積を求められるか等を把握する。	○	△	—
	全体	毎時間	・面積の求め方の説明等のよいところを評価し全体に広める。	○	○	—
	振り返り（感想等）	毎時間	・納得した面積の求め方等の視点を示して書かせ、よい記述は紹介する。	○	◎	◎
	ノート、宿題等	3、4回/単元	・面積の求め方についての参考になるノートは、掲示して広める。	—	◎	◎
	確認問題	毎時間	・面積の公式を使って平面図形の面積を求められるかについて、 <u>授業の終盤等で確認問題を実施する。</u> →①全体の定着状況が不十分であれば、次時の授業構想を変更する。 ②個別指導等の手立てを講じる。	◎	△	—
	レポート	1回程度/単元	・平面図形の面積の求め方についてのレポートを作成させる。作品の優れている点を紹介する。各レポートにはコメントを入れる。	—	◎	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	顕著な姿	・既習の図形への分割や合成の考え等を取り上げ、評価に反映する。	—	○	◎
	説明（発表）全体	ねらいを明確にして適切に	・発表の <u>回数のみ</u> で評価しない。面積の求め方の説明について、「 <u>知識・技能</u> 」「 <u>思考・判断・表現</u> 」と関連付けて評価する。	○	○	△
	振り返り（感想等）	3、4回/単元	・「 <u>授業がおもしろかった</u> 」等の「 <u>知識・技能</u> 」「 <u>思考・判断・表現</u> 」と <u>関連のない記述のみ</u> を取り出して評価の対象にしない。	○	○	◎
	ノート、宿題等	3、4回/単元	・ <u>ノートや宿題等を出しているかどうかのみ</u> で評価するのではなく、既習の面積の求め方に帰着させる考えと関連のある記述を評価する。	△	○	◎
	単元（小）テスト	1、2回/単元	・授業の確認問題をベースに単元テストや小テストを実施する。 ・公式を使って図形の面積を求める（ <u>事実的な知識の習得</u> ）だけでなく、 <u>公式を導く際の考え方（知識の概念的な理解）</u> に関する問題を扱う。	◎	○	—
	レポート	1回程度/単元	・コメントを返すことで評価する。	—	◎	○



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校理科「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・優れた実験計画など、参考となる考え等を取り上げて共有する。	○	○	—
	説明（発表）ペア 全体	毎時間	・観察、実験等の知識・技能が身に付いているかを把握する。	○	△	—
		毎時間	・理科の見方・考え方を働かせている場面を評価し、共有する。	○	○	—
	振り返り（感想等）	毎時間	・書き方の視点を提示して書かせ、よい記述は共有する。	○	◎	◎
	ノート、ワークシート、レポート等	単元で数回	・参考となるノート（学び方）は、掲示等して共有する。 ・自然の事物・現象についての知識や、観察、実験などに関する基本的な技能（スケッチ等）が身に付いているか状況を把握する。	◎	◎	◎
	ペーパーテスト、パフォーマンステスト	単元で数回	・基本的な概念や原理・法則などを理解しているか、観察、実験の基本操作を習得しているか状況を把握する。 →①定着状況が不十分であれば、授業構想を変更する。 ②個別指導等の手だてを講じる。	◎	○	—
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	顕著な姿	・観察、実験の基本操作が身に付いているか、理科の見方・考え方を働かせているか等について行動観察し、評価に反映する。	○	○	○
	説明（発表）	ねらいを明確にして適切に	・発表の回数のみで評価しない。ねらいを明確にして、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。	○	○	△
	振り返り（感想等）	単元で数回	・「授業がおもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り出して評価の対象にしない。	○	○	◎
	ノート、ワークシート等	単元で数回	・ノートや宿題等を出しているかどうかのみで評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。	△	◎	◎
	単元（小）テスト	1、2回/単元	・「事実的な知識の習得」だけでなく「知識の概念的な理解」に関する問題をバランスよく出題する。	◎	○	—
	ワークシート（レポート）	観察・実験	・ワークシートの記述・描画を分析し、評価する。実験のレポートにはコメントを入れる。	◎	◎	○

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校理科 3年 太陽と地面の様子における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影した影の写真を比較して、影のでき方について、各自が問題を見いだしているか、特徴的な児童の学習状況を把握する。 ・方位磁針等を正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録しているか把握し、改善に生かすことができるように働きかける。 	○	○	—
	ノート、ワークシート、レポート等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽と地面の様子との関係について、観察・実験などの結果を基に考察し、表現するなどして問題解決しているかを（思考・判断・表現等）把握し、よい記述は紹介する。 	◎	◎	◎
	ペーパーテスト、パフォーマンステスト	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを理解しているかを記述から把握する。 →①定着状況が不十分であれば、授業構想を変更する。 ②個別指導等の手立てを講じる。	◎	○	—
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	説明（発表）	顕著な姿	<ul style="list-style-type: none"> ・午前と午後の影ふみについての差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現しているか（思考・判断・表現等）を評価する。 	○	◎	△
	振り返り（感想等）	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽と地面の様子との関係について、学んだことを学習や生活に生かそうとしているか（主体的に学習に取り組む態度）について、振り返りの記述から評価する。 	○	○	◎
	ノート、ワークシート（レポート）等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・時間ごとに記録した影の位置が太陽の位置の変化に伴って変わることを理解しているかを、ノートの記述から分析し評価する。 	◎	◎	○
	単元（小）テスト	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・日陰は太陽の光を遮るときにでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることや、地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを記述から評価する。 	◎	○	—



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校生活「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験を基にして、<u>どのようなことに気付いているか</u>等を把握する。 他の児童の参考になる気付き等を取り上げて共有する。 活動の中で工夫していることを評価し、全体に広める。 	○	◎	○
	振り返り(感想等)	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> 活動や体験を基にして、<u>感じたことや考えたことを言葉や絵で表現</u>させ、よい内容は紹介する。 <u>児童の思いや願い</u>を見取り、次の時間の授業を構想する。 	◎	○	○
	ワークシート、表現物等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や絵等の参考になる記述(学び方)には、コメントを入れ、<u>掲示</u>するなどして広める。 	○	◎	○
	イベント、発表会等(振り返り)	1回程度/単元	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習のまとめとして表現させる。一人ひとりの作品の<u>どこが優れているか</u>について紹介する。 	○	○	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> <u>気付きの質が高まっているか、活動自体の楽しさを味わっているか</u>などを取り上げ、評価に反映する。 	◎	○	○
	発言(発表)全体	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 発表の回数のみで評価しない。ねらいを明確にして、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。 	◎	◎	○
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 「おもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り出して評価の対象にしない。<u>対象の変化、友達との違い等</u>に気付いているかどうかを見取り、評価に反映する。 	◎	○	△
	ワークシート、表現物等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートや表現物等を出しているかどうかで評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。 	○	◎	△
	イベント、発表会等(振り返り)	1回程度/単元	<ul style="list-style-type: none"> 粘り強さ、学習の調整、実感や自信という意思的な側面について評価する。 	○	○	◎



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

小学校生活「指導と評価の一体化」のための学習評価に関するQRコード

東京都立大学附属小学校

小学校生活 1年 「いきもの大すき」における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・継続的な飼育活動を通して、モルモットの特徴、変化や成長の様子について気付いていること（知識・技能）や、モルモットの変化や成長の様子に合わせて飼育環境を工夫していること（思考・判断・表現）を評価し、全体に広める。	◎	◎	○
	振り返り(感想等)	毎時間	・モルモットを飼育して、気付いたことや感じたことを絵や文で表現させ、よい内容は紹介する。 ・児童の思いや願いを見取り、次の時間の授業を構想する。	◎	○	◎
	ワークシート、表現物等	3、4回/単元	・観察カードにはコメントを入れ、掲示するなどして広める。	◎	○	○
	イベント、発表会等(振り返り)	1回程度/単元	・単元の学習のまとめとしてモルモットの紹介本を作成する。一人ひとりの作品のどこが優れているかについて紹介する。	○	◎	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	3、4回/単元	・モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いているか等を取り上げ、評価に反映する。	◎	○	○
	発言(発表)全体	3、4回/単元	・発表の回数のみで評価しない。モルモットの変化や成長の様子に着目したり、世話の仕方を見直したりしているかを見取り、評価する。	○	◎	○
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	・モルモットの飼育を通して、工夫して関わることに意欲を感じ、関わり続けようとしていることについての記述を評価する。	○	○	◎
	ワークシート、表現物等	3、4回/単元	・観察カード等を出しているかどうかで評価するのではなく、モルモットの変化や成長の気付き、自分のモルモットに対する関わり方の変化への気付き等に関する記述を評価する。	◎	○	○
	イベント、発表会等(振り返り)	1回程度/単元	・紹介本を作成する際に、モルモットの飼育に粘り強く取り組み、今後の自分の生活に生かしたいことが書かれているか等を評価する。	○	○	◎



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

小学校音楽「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・学習への興味、友達の発言に対する反応等を表情や体の動き等から捉える。	○	○	○
	演奏（歌唱）の聴取	毎時間	・個人、ペア、グループでの活動の際に、部分的にフレーズを取り出して聴取するなど学習形態を工夫する。	◎	○	△
	発言	毎時間	・聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている（思考・判断・表現）等、発言のよいところを価値付け、全体に広める。	◎	◎	○
	振り返り（感想等）	毎時間	・観点を提示して書かせる。題材を通じた目標や見通しをもとうとしている（主体的に学習に取り組む態度）等、よい記述を紹介して全体に広める。	○	◎	◎
	ワークシート等	毎時間	・記述内容だけでなく、記述をもとに思いや意図を尋ねるなどして学習状況を把握する。	○	◎	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	適宜	・音楽的な見方・考え方等を取り上げ、評価に反映する。	◎	○	○
	演奏（歌唱）の聴取	適宜	・「知識・技能」の習得状況等について、 <u>継続的に把握し、適宜記録に残す。</u> <見取りのポイントの例> ・呼吸や言葉の発音に気を付けて歌っているか（歌唱） ・旋律のまとまりを考えながら息継ぎをしているか（器楽） ・表したい様子に合う音を選んで表現しているか（音楽づくり）	◎	○	△
	発言	適宜	・ <u>発言の回数のみで評価しない。</u> 音の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いているか（知識）、曲想と音楽の構造などとの関わりに気付いているか（思考・判断・表現）等を評価する。	◎	◎	○
	振り返り	適宜	・提出状況や記述量だけで評価しない。学びが深まったことを自覚できているか（主体的に学習に取り組む態度）等を評価する。	○	○	◎
	ワークシート等	適宜	・曲想と音楽の構造などとの関わりに気付いているか（知識）、音楽を形作っている要素の働きに着目して考えているか（思考・判断・表現）等を評価する。	◎	◎	○



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校音楽 4年「曲のとくちょうをとらえて表現しよう」(A表現・歌唱、A表現・器楽)における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・学習への興味、友達の発言に対する反応等を表情や体の動き等から捉える。	○	○	◎
	演奏(歌唱)の聴取	毎時間	・学習状況に課題があった場合は、「知識」と「技能」のどちらに要因があるかを把握し、学習の改善に生かすことができるように働きかける。	◎	○	△
	発言	毎時間	・聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている(思考・判断・表現)等、発言のよいところを価値付け、全体に広める。	◎	◎	○
	楽譜を記したワークシート	毎時間	・「とんび」と「エーデルワイス」の第1、2、4フレーズの旋律の共通点や第3フレーズが他の部分と違っていることに気付き、感じ取ったことや想像したことと結び付けて書いているか(知識)等を評価する。	◎	○	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	1回/題材	・学習状況を継続的に見取り、記録に残す場面は題材の最後に設定する。	○	○	◎
	演奏(歌唱)の聴取	1、2回/題材	・ <u>学習したことを生かして表現できているか</u> を評価する。 ＜技能の見取りのポイント例＞ ・旋律の抑揚や、第3フレーズの変化を捉えた表現などが実際の演奏で表現できているか。(歌唱) ・第3フレーズは歯切れのよい感じを出すために他の部分よりもタンギングをはっきりさせて演奏しているか。(器楽)	◎	○	—
	発言	適宜	・「エーデルワイス」の上下する旋律の動きが山々や自然を前にした気分を感じさせるなど、音楽のよさや面白さを生み出している音楽を形づくっている要素の働きに着目して考えている(思考・判断・表現)等を評価する。	○	◎	○
	振り返り	1回/題材	・「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点における達成状況を踏まえながら評価する。	△	△	◎
	楽譜を記したワークシート	1、2回/題材	・旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫し、様子を表そうとするなど、表現したい思いや意図をもっているか(思考・判断・表現)等を評価する。	◎	◎	○

◎…積極的に評価の対象、○…評価の対象、△…場合によっては評価の対象



児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校図画工作「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、 教員の指導改善に 生かす評価)	観察	適宜	・表現活動では、活動状況を把握し、次時の授業や個別学習に生かす。 ・鑑賞活動では、自分の見方や感じ方を整理し深めているかを把握する。幅広い見方や感じ方を、全体で共有する。	○	○	○
	対話	適宜		△	○	○
	作品 等	適宜	・児童の主題を把握し、思いが表れた作品や表し方を工夫している作品を紹介し、共有する。知識及び技能の習熟の状況を把握する。 ・造形的な視点に着目できているか、製作中の試行錯誤の様子などを把握する。 ・発想や構想を深めることができているか、製作中のつまずきがないか、造形的な視点に着目できているかなどを把握する。	○	○	△
	ワークシート 等	適宜		○	○	△
	アイデアスケッチ 等	適宜		○	○	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	観察	適宜	・一人一人の表現が目の前で展開される図画工作科では、 <u>観察は大変重要</u> であり、活動内容やねらいに合わせて活動状況を評価する。	◎	◎	◎
	対話	適宜	・感じたことや考えたことを言葉に表し、話し合うことで、造形的な視点をもとに表しているか(知識)、自分の見方や感じ方を整理し深めているか(思考・判断・表現)を評価する。	◎	◎	◎
	ビデオ動画、 フィールドマップ、 座席表への記録 等	適宜	・造形遊びなど、 <u>活動の過程の姿に着目して評価する場合</u> 、観察や対話も重要だが、適切な場面で活動の流れや思考のプロセスを動画等に残し、「思考・判断・表現」等と関連付けて評価する。 <u>活動の印象だけで評価しない。</u>	○	◎	○
	アイデアスケッチ	適宜	・文字や簡単な絵などで、考えを整理したり、発想や構想を深めたりできているか(思考・判断・表現)、造形的な視点に着目できているか(知識)などを評価する。	◎	◎	◎
	作品 等	適宜	・ <u>完成した作品の出来映えだけでなく、活動の過程における評価と照らし合わせながら評価する。</u>	◎	◎	△
	鑑賞カード 等	適宜	・ <u>提出状況や記述量だけでなく、根拠を明確にしながら造形的な視点を理解できているか(知識)、自分の見方や感じ方を深めているか(思考・判断・表現)を評価する。</u>	◎	◎	◎
	ワークシート 等	適宜	・造形的な視点に着目できたか、製作中の試行錯誤の様子などを評価する。	◎	○	◎



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

小学校図画工作 3年 のこぎりザクザク生まれる形(絵や立体・工作)における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、 教員の指導改善に 生かす評価)	観察・対話	適宜	・題材の初めに、児童の木を切る様子を観察するなどして、学習状況を把握し指導に生かす。	◎	—	○
			・発想や構想の場面では、木を組み合わせながら、表したいことを考えている様子を把握し、指導に生かす。	—	◎	○
	・題材を通して、つくりだす喜びを味わい、進んで木を切ったり木片を組み合わせたりにして立体に表し、鑑賞する様子を把握し、指導に生かす。	—	—	◎		
	作品	適宜	・児童の主題を把握し、思いが表れた作品や表し方を工夫している作品を紹介し、共有する。知識及び技能の習熟の状況を把握し、指導に生かす。	○	○	△
	写真	適宜	・製作途中の作品の写真を撮り、工夫している作品を全体で共有したり、次時の指導に生かしたりする。また、発想や構想の変容を把握し、指導に生かす。	○	○	△
観点別学習状況 の評価 (観点ごとに評価 し児童の学習状況 を分析的に捉える もの)	観察・対話	適宜	・発想や構想の場面では、木片を使って組み合わせ方を考えたり、多方向から見たりして主題(表したいこと)を考え、見付けている様子を評価する。	—	◎	○
			・ <u>主題を見付ける過程を踏まえて</u> 、評価する。	◎	—	○
			・製作の場面では、木を切ったり木片を組み合わせたりにする行為を通して、形などの感じに着目し、表したいことを工夫して表しているかを評価する。	—	◎	○
			・鑑賞の場面では、作品のよさや面白さ、表し方の工夫などについて感じ取り、話し合っている様子などから、自分の見方や感じ方を広げているかを把握し、評価する。	—	◎	○
	・「主体的に学習に取り組む態度」は、つくりだす喜びを味わい、進んで木を切ったり木片を組み合わせたりにして立体に表す活動や、鑑賞する活動に取り組む姿を、学習活動全体を通して把握し評価する。	—	—	◎		
	鑑賞カード	鑑賞時	・鑑賞の場面では、自分の見方や感じ方を広げているかを把握し、評価する。 <u>提出状況や記述量だけでなく</u> 、木片の形や色の組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもち、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしているかなどを評価する。	○	◎	○
	作品	授業後	・「知識・技能」の視点で、形等の感じに着目し、工夫して表しているかを評価する。全体の印象だけでなく部分にも着目し、材料や用具をどのように扱っているかを捉える。完成した作品の出来映えだけでなく、製作活動の過程と照らし合わせて評価する。	◎	○	○

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。



児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校家庭「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・学習内容が理解できているか、また、それに係る調理や製作等が適切にできているかを把握し、次時の授業や個別学習に生かす。	◎	—	○
	振り返り	毎時間		◎	—	○
	発表	毎時間	・調理や製作等について、考えたことを分かりやすく表現できているところを評価し、全体に広める。	○	○	—
	実習計画 実践記録表	適宜	・学習状況を把握できる評価場を設定し、自分の実践を評価したり改善したりしているかを把握し、指導に生かす。	—	◎	○
	ポートフォリオ	適宜	・自分の学びを振り返り、自分なりに解決しようと主体的に取り組んでいるかを把握し、指導に生かす。	—	—	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	適宜	・生活の営みに係る見方・考え方などを取り上げ、評価に反映する。 ・調理や製作においては、適切に評価場を設定し、学習内容を理解するとともに、それらに係る技能を身に付けているかを評価する。	◎	—	○
	ペーパーテスト	ある程度の内容にまとまりごとに実施	・学習内容を理解しているかを評価する。(知識・技能) ・実践に向けた計画を考える場を設定し、適切な解決方法を具体的に記述しているかを評価する。(思考・判断・表現)	◎	○	—
	実習計画 実践記録表	適宜	・評価・改善する力については、実践後に「感想」や「改善したいこと」を書かせ、具体的な改善策を示しているかを評価する。	—	◎	○
	報告会	単元末	・課題解決に向けた一連の活動について、自分の実践内容を分かりやすく友達に伝えているかを評価する。 〈見取る方法の例〉グループごとにタブレット等を準備し、一人ひとりの発表を互いに録画して記録に残す。	—	◎	○
	ポートフォリオ	適宜	・適切に自己評価し、友達のアドバイスを参考に改善しようとすることを具体的に記述しているかを評価する。 ・学習したことを他の場面にも生かすなど、実践しようとすることを具体的に記述しているかを評価する。	—	—	◎

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校家庭5年「おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁」における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	適宜	・食事の役割や食事の大切さ、米飯及びみそ汁の調理の仕方等の学習内容が理解できているか、また、それに係る調理が適切にできているかを把握し、次時の授業や個別学習に生かす。	◎	—	○
	振り返り	適宜		◎	—	○
	発表	適宜	・米飯及びみそ汁の調理について、実験を観察したり試食したりして考えたことを、分かりやすく表現できているところを評価し、全体に広める。	○	◎	—
	実習計画 実践記録表	1回	・基本のみそ汁をペアで調理する場面を設定する。みそ汁の調理の仕方について理解し、だしのとり方や中に入れる実の切り方や入れ方などが適切にできているかを把握し、指導に生かす。	◎	—	○
	ポートフォリオ	適宜	・米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んでいるかを把握し、指導に生かす。	—	—	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	確認テスト	ある程度の内容にまとまりごとに実施	・みそ汁に関する一連の調理の仕方や、なぜそのようにするのかという手順の根拠などを理解しているかを評価する。(知識・技能) ・米飯及びみそ汁の調理を振り返る場面を設定し、実践を評価したり改善したりする方法を具体的に記述しているかを評価する。(思考・判断・表現)	◎	◎	—
	実習計画 実践記録表	1回	・オリジナルみそ汁を一人で調理する場面を設定する。みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解し、適切にできているかを評価する。	◎	—	○
	ポートフォリオ	適宜	・確認テストの結果を振り返ったり、調理計画について適切に自己評価したりして、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとする事等を具体的に記述しているかを評価する。 ・学習前と学習後を比較し、できるようになったことを実感し、家庭で実践しようとする事等を具体的に記述しているかを評価する。	—	○	◎

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校体育「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察 机間観察	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性をとらえたよい動きや考え等を共有する。 ・動きがどの程度身に付いているか等を把握する。 ・よい動きを見付けたり、伝えたりしている等の伝え合う活動を評価し全体に広める。 → 運動領域においては、児童が自己の課題を見付けて活動を工夫できるように、運動する場、補助的な運動や練習方法、作戦例の提示等を見直すことが必要	◎	◎	◎
	I C T	単元による	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの動きを撮影した動画を見合ったり、教師が全体に提示したりして、よい動きを共有する。 	◎	○	△
	学習カード	3、4回／単元	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題について思考、判断したことを記述している等のよい学習カード（学び方）は、掲示する等して広める。 	○	◎	○
	振り返り(感想等)	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> ・書き方の視点を提示して書かせ、よい記述は紹介する。 	○	◎	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察 机間観察	観点を絞る	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や保健との多様な関わり方等を評価に反映する。 ・発表の回数のみで評価しない。「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。全員には当てられない点に注意する。 	◎	◎	◎
	学習カード	3、4回／単元	<ul style="list-style-type: none"> ・提出状況や記述量のみで評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。 	○	◎	○
	振り返り(感想等)	3、4回／単元	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がおもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り出して評価の対象にしない。 	○	○	◎
	単元テスト	1回程度／単元	<ul style="list-style-type: none"> ・保健領域の「知識・技能」では、原則や概念に関する知識に加えて、該当する技能についての行い方（対処の仕方）に関する知識も評価の対象とする。 	◎	○	—



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校体育 4年 高跳びにおける「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> ・助走のリズムや踏切りなど、よい動きや考え等を取り上げて共有する。 ・動きがどの程度身に付いているか等を把握する。 ・よい動きを見付けたり、伝えたりしている等の伝え合う活動を評価し全体に広める。 →児童が自己の課題を見付けて活動を工夫できるように、運動する場、補助的な運動や練習方法等の手立てを見直す。	◎	◎	◎
	I C T	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・I C Tを活用し、互いの動きを撮影した動画を見合ったり、教師が全体に提示したりして、よい動きを共有する。 	◎	○	△
	学習カード	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題について思考、判断したことを記述している等のよい学習カード（学び方）は、掲示するなどして広める。 	○	◎	○
	振り返り(感想等)	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> ・書き方の視点を提示して書かせ、よい記述を紹介する。 	○	◎	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	観点を絞る	<ul style="list-style-type: none"> ・高跳びの行い方について知るとともに、助走や踏切り、空中姿勢、着地等の動きを身に付けているか評価する。 ・自己の課題を見付け、それに適した練習の場を選んでいる姿を取り上げ、評価に反映する。 	◎	◎	◎
	学習カード	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的に学習に取り組む態度」については、助走のリズムや踏切りといったよい動きや考え等、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。 	◎	◎	○
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後の場面で振り返り等に記入された内容から、高跳びの行い方やコツについてどのように考え活動したのかについて評価する。 	◎	◎	◎

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



小学校外国語5年「She can run fast. He can sing well. (We Can!)」における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点等	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (児童の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・ She can play tennis. I can play tennis, too. 等のパフォーマンステストで使う言語材料等を用いたやり取りを取り上げて共有する。	○	○	—
	やり取り (ペア)	毎時間	・ She can tennis. 等の共通する誤り等を全体で考えながら修正する。	○	○	△
	振り返り (感想等)	3、4 回/単元	・ 伝わりにくいときにジェスチャーを交えた等の記述は紹介する。	△	◎	◎
	確認リスニング 確認やり取り	2、3 回/単元	・ 自分や第三者を紹介するための言語材料や技能を身に付けているかを確認する。→ 技能等が十分に身に付いていない児童がいる場合は、Small Talk において、できることやできないこと等を問答する。	◎	◎	○
	パフォーマンス テスト	やり取り 発表	1、2 回/学期	・ 第三者と自分を関連付けたり、聞き手に質問したりする等、パフォーマンスの優れている点を紹介する。また、評価結果を示し、自分自身で成果や課題を明らかにさせ、次の単元に向けた目標をもたせる。	◎	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し児童の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	顕著な姿	・ 粘り強くやり取りしようとする姿等を取り上げ、評価に反映する。	—	○	◎
	やり取り (ペア)	ねらいを明確にして適切に	・ 1回のやり取りで2ペア程度を観察し、本単元で扱う言語材料を用いて自分や第三者を伝え合う技能を身に付けているか进行评估する。	◎	○	△
	振り返り (感想等)	3、4 回/単元	・ 自ら学習に目標をもち、自分や第三者のことをよく知ってもらうために、試行錯誤しながら学習を進めている様子が分かる記述を4技能5領域に取り組む様子と照らし合わせて評価する。	△	○	◎
	単元 (小) テスト	1、2 回/単元	・ 授業の確認リスニング等をベースに単元 (小) テストを実施する。	◎	○	△
	パフォーマンス テスト	やり取り 発表	1 回/単元	・ 自分や第三者をよく知ってもらうために聞いたり話したりしているか等、事前に示していたルーブリックに照らし合わせて評価する。 ・ 誤りの訂正については、児童の発話内容を大切にしながら、過度に正確さを求めすぎず、長いスパンで正確さを高めていけるようにする。	◎	◎

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

